



一般社団法人

千葉県

作業療法士会

ニ ュ ー ス



R5.3.26 (日)
臨時総会を開催しました!



Topics

- R4 年度学生奨励賞の発表
- R4 年度臨時総会の総括
- 千葉県作業療法学会の総括

令和5年度活動開始のご挨拶

一般社団法人千葉県作業療法士会 会長 坂田祥子

皆様の日頃の千葉県作業療法士会（以下、県士会）活動へのご協力に感謝申し上げます。

新年度となり新しい職場で業務を開始した方、新しい職員を迎えた方、皆さんそれぞれの新年度を迎えたことと存じます。令和5年度の県士会活動では、各部・委員会の活動の充実を図りつつ県士会内外の連携を更に深めていきます。

また、コロナ感染に留意しながら対面による会員同士の交流の場を回復させていきたいと願っています。活動内容については令和4年度臨時総会にて決議された議案書が県士会ホームページに掲載されています。

くわえて、総会にて代議員の皆さんからいただきました質問やご意見の詳細が本ニュースに掲載されていますので議案書とともにご確認いただきたいと思います。代議員の皆さんとの質疑応答では県士会の代表として多くのことに気づき、県士会活動を真に充実させていくことの必要性を感じました。改めて会員の皆さんの声に応える活動となるよう力を尽くしていきたいと考えています。

3月末に新卒者向けに千葉県作業療法士会の説明会をオンラインで開催しました。そこで、臨時総会での代議員の皆さんとの質疑応答で感じたことと同じようなことを感じる経験をしました。

これから作業療法士として臨床に入る皆さんにとっては「県士会に入会すること、県士会活動に参加することが自分にとってどれだけ役に立つのかピンとこない」という反応が大半のようでした。当然の反応と半ば納得しかけたのですが、それではいけないと思いなおしました。

皆さんご存じと思いますが、日本作業療法士会の組織率が低下してきています。

その状況はおそらく当県士会も同じだと思います。作業療法士は人々の「その人らしい生活の実現」に貢献できます。人々のその人らしい生活を長く安定したものにしていくためには地域づくりが欠かせません。作業療法士は、対象者と地域とに働きかけて「その人らしい生活の実現」に貢献できます。作業療法士の力を結集すれば、より広く確実な貢献ができるはずです。一人でも多くの作業療法士の皆さんに千葉県作業療法士会に加わっていただきたいですし、千葉県作業療法士会の会員でよかったと満足していただける県士会にしていきたいと思っています。同時に、会員一人一人にとって役に立つ満足できる県士会は、会員自身がつくり上げるものと私は信じています。

ますます会員の皆様のご意見とお力を県士会にお寄せいただきますよう、心よりお願い申し上げます。

お悔やみ申し上げます。

県士会事務局職員の森川久美子さんが令和5年2月14日に逝去されました。令和4年の夏に膵臓がんが見つかり、放射線治療をしながら、体調の良いときには在宅で事務局のお仕事をしてくださっていましたが、年が明けて肝臓への転移が見つかり、2月に入って体調が急変し、永眠されました。

森川さんは、平成29年7月1日から水曜と金曜の週二日間、約5年半にわたり、おもに会員情報管理や公文書の作成・発送等をご担当くださっていました。とてもまじめな性格で、丁寧にお仕事に取り組み、いつも真摯に、穏やかに対応くださる方でした。森川さんのご冥福をお祈りいたします。

財務部からのお知らせ

会費シールについて

会費シールの発送はありません。会員番号紹介システムに移行します。
会費が1年間未納になりますと会員資格喪失になりますのでご注意ください。

今年度の会費自動引き落としの時期について

2023年度（令和5年度）会費引き落としは6月5日（月）を予定しております。
引き落とし額は8165円です（年会費8000円+引き落とし手数料165円）。
残高不足の場合未納となりますので、口座残高確認をお願いします。

自動引き落としを利用していない場合

2023年度（令和5年度）年会費8000円を下記の口座に6月30日（金）までにお振込み下さい。

なお、振り込み手数料はご負担いただきますようお願いいたします。
また年会費の自動引き落としを推奨しており、口座振替依頼書の用紙郵送しますので、県士会ホームページのお問合せフォーム（右記QRよりアクセスできます）から会員番号、氏名、送付先郵便番号・住所をお知らせください。



新規入会の場合

2023年度（令和5年度）より新規入会申し込みの方は（入会金1,000円年会費8,000円）9,000円を下記の口座までお振込みください。

一般会員向け入会申込書はホームページ（右記QRよりアクセスできます。）より新規入会手続きフォームをダウンロードしていただき郵送にて申し込みをお願いします。



振込口座：千葉銀行 蘇我支店 普通預金 3827235

一般社団法人千葉県作業療法士会 代表理事 坂田祥子（サカタ サチコ）

2022 年度学生奨励賞の授賞をおこないました

当士会では、表彰規程に則り、令和4年度「一般社団法人千葉県作業療法士会奨励賞」の表彰を行いました。

「奨励賞」は、県内養成校の学生（卒業年次）を対象に、士会への入会と養成への士気を高揚し、県内作業療法の発展に寄与することを目的としています。

推薦要件は、在学中に学業等に優秀な成績を修め、かつ、a. 当士会主催の学会や学生対象イベント等に積極的に参画した者、b. 千葉県内に就職を予定している者（ab どちらか、または両方を満たす者）として、県内養成校6校から各1名を推薦いただきました。

「奨励賞」を受賞された方々をはじめ、新入会頂く皆様には、若い力と発想で当士会に新しい風を吹き込んでいただけるのではないかと思います。

受賞者の皆さんのご活躍を期待しています。

氏名：三好 芙生さん
養成校名：八千代リハビリテーション学院

私は、対象者様の心身に寄り添い、その人らしさを引き出せる作業療法士になることが目標です。対象者様の心情を読み取り、適切な関わりができる技術は、作業療法士の魅力の一つだと私は思います。機能面だけではなく、精神面のサポートにも注力して、目標とする作業療法士になれるように最善を尽くします。

氏名：大土 聖未さん
養成校名：千葉・柏リハビリテーション学院

私は作業療法士になるにあたって一人一人の患者様をよく理解し、患者様がやりたいこと、充実した生活を送れるよう支援していきたいです。そのため常に勉強に励み精進していきたいと考えます。

氏名：海老原 優芽さん
養成校名：千葉県立保健医療大学

これから地域リハビリテーションに携わっていく中で疾患を診るだけではなく「人」を診て、対象者様が「自分らしい生活」を送れるよう支援していきたいと思います。広い視野を持ち、対象者様それぞれのニーズに合わせた作業療法が提供できるよう、これからも勉学に励んでいきたいと思います。

CONGRATULATIONS!

授賞に際して、県士会ニュースへの掲載をご承諾いただいた
受賞者6名のコメントをご紹介します。

この度はおめでとうございます！

これから一緒に千葉県の実業療法を盛り上げていきましょう！

氏名：小原 奈津美さん
養成校名：千葉医療福祉専門学校

私は、実習で見学させて頂いた作業療法士の方々のように患者様が今1番困っていることに気づき、
共感や支援が出来る作業療法士になりたいと思います。

また、4月から新しい環境になり不安ばかりですが、先輩方や家族・友達との交流を忘れず、
少しずつ作業療法士また社会人として成長していきたいと思っています。

氏名：畠山 和希さん
養成校名：帝京平成大学

この度は、奨励賞をいただくことが出来たことを嬉しく思います。

これから、作業療法士になってからは様々なことに挑戦し、沢山の世界を知りたいと考えています。
また、人との繋がりを大切に、日々学べることに感謝しながら患者様に寄り添える作業療法士にな
りたいと思います。

氏名：小野里 栄美さん
養成校名：国際医療福祉大学

私は、患者様の思いに寄り添える作業療法士になりたいと考えています。

そのために、患者様との日々のコミュニケーションを大切にしていきたいと思っています。

また、先輩方から臨床思考過程や臨床技術を学び、専門的な知識を身につけ、個別性を大切にしたり
ハビリテーションを提供できるよう努めていきたいと思っています。

令和4年度 一般社団法人千葉県作業療法士会 臨時総会の報告 1

去る3月26日(日)10時より 千葉県立保健医療大学図書館棟大講義室にて令和4年度第1回臨時総会が開催された。前回の定時総会に続き、今回の臨時総会も対面開催とし、「県士会活動における新型コロナウイルス感染症予防対策の指針 Ver.3」に基づき行われた。以下のとおり報告する。

議案書の公開と質問の受付：議案書をホームページで公開し、議案に対しての意見や質問を受け付け、メールで回答した内容は以下の通りである。

※掲載スペース確保の都合、謝辞などは削除し言い切り方に表現を変更しております。何卒ご了承いただけますと幸いです(県士会ニュース編集担当)

Q1 活動方針について

現在の理念や基本方針は、10年以上前に定めたもので、必要に応じて見直しをした方が良いと思うが、見直しはしているか？
見直しをして、それでも今のままが良いという結論でないのなら、一度見直しをして欲しい。コロナの影響もあるだろうが、全体的に内向きの取り組みが目立つように感じる。もう少し社会に向けた啓発や広報など、ITを駆使するなどして取り組めたら良いのではと思う。また、ちばPOS、千葉JRATの現状についても、簡単にいいので教えてほしい。

A1 理念「リハビリテーション&ノーマライゼーション」、理想像「学びあい、支え合い、力を合わせ、医療・保健・福祉分野において県民に貢献する県士会」、基本目標「つながり・育ち・参加する」が当士会に相応しくないとは思っていないが、以前にも同様の提案があり見直していく方向性である。中長期展望の策定は、(新たな)理念や基本方針に基づき、具体的な達成目標を掲げロードマップを描くことであると考えている。現状、理念等の見直しも中長期展望の策定も、会務を実行しながら如何に検討を進めるかが大きな課題と感じている。

社会に向けた啓発や広報など県士会として取り組む必要性は認識している。広報については、少ない委員で精一杯取り組んでいただいている。担当委員を増員し、ITを活用するのであればそういった領域に詳しい会員もしくは専門家の協力を得て環境を整えていく必要があると考えている。啓発活動も作業療法の多様性こそ活かせる部分と思うので今後の検討課題とさせていただきます。

ちばPOSについては、令和4年度は生活期リハ研修に加え、認知症リハビリテーション専門職研修(基礎コース、応用コース)を開催した。現在は、組織体制を確立しようとしてちばPOSの活動目的から定款や規約を見直している。

千葉JRATは、近年はコロナ禍での災害リハ支援の在り方(各構成団体と千葉JRATの連携など)を検討・確認してきた。また、災害時の県との協定に基づき活動の手引きを事務局と県の間で見直していると会議の場で共有されている。

Q2 事務局の移転について

事業計画の中では特に言及がないが、緊縮財政に加えてコロナの影響もあり、想定より早めに内部留保が蓄積されているかと思う。内部留保がいくらか。また、事務局移転に向けた財政上の見通し(移転時期など)と、具体的な候補地(物件)などあれば、教えてほしい。

A2 内部留保について

内部留保は蓄積され、翌年度の事業を年度当初から開始できるまでに改善されている。

A2 事務局移転に向けた財政上の見通し・具体的移転先

事務局移転より事務局機能強化が課題と考えている。現在の県士会活動での課題の一つとして、委員の活動負担が大きい点が挙げられる。活動に参画する委員の確保が困難である委員会も一部あり、委員会活動に参画することに利点よりも負担を大きく感じている委員もいると伺っている。現在、委員が行っている事務処理業務の一部でも事務局で担うことができると、企画立案やより創造的な点に委員の労力を注ぐことができ、それにより委員の負担感軽減に寄与するのではないかと考える。事務局機能を強化するためには、人件費と人材が必要になる。人件費は士会財源の多くを占め、一時的な費用ではなく運営費用として計画する必要がある。また、協会員=士会員が実現すると現在の事務局業務の変化5が予測され、現時点では見通しが持てない状況。

さらに、理事会では講師謝金の見直しが必要との意見なども聞かれ、士会全体で今後の事業や予算の使い方を考えていく必要があると考える。

以上より、現在、具体的に事務局移転を検討するタイミングではないと考えている。ただし、このことは三役では検討してきたことだが、理事会できちんと検討をしていないので、今後検討し理事会報告書で報告させていただきたい。

Q3 事務局渉外部

昨年度に比べて、いくつかなくなっている派遣があるが、漏れていないか？少なくとも「千葉県総合支援協議会の精神障害者地域生活支援専門部会への派遣」はしていると思うので、盛り込んで欲しい。

⇒ 記載漏れがあったことを総会で説明した。

Q4 事務局福利厚生部

新人会員オリエンテーションについて、長期間、同一形式のイベントになっていて、担当者のほうでマンネリを感じていないか？担当者がマンネリを感じると、せっかくの事業の熱量が下がってしまうのではないかと心配している。対面開催も検討するのであれば、方法の見直しを試してみても良いのではないかと。

令和4年度 一般社団法人千葉県作業療法士会 臨時総会の報告2

A4 参加しようと思える企画の立案に関して毎度頭を悩ませている。距離の問題で参加に消極的であった会員などは昨今の Web 会議の浸透によりハイブリッド開催なども十分考えられる。当部局は部局員の補充が十分に行えていない現状もあり、課題は山積しているが世の中の変化とともにイベントの焦点を見定め構成していきたい。

Q5 地域連携部連携システム委員会

この委員会は、具体的に何をするとところか？

A5 各地域の地域包括ケアシステムへの作業療法士の人材派遣の仕組み作りを図ることを目的に設置されている。また他の関連職能団体との情報共有や協働の調整なども役割の一つである。ここ数年は、協会主催会議や研修会参加が主な活動であり、県内各地域の状況把握に努めている。今後は、協会が進めている都道府県の地域連携における市区町村への人材派遣や人員配置などが目標に掲げられていることも加味し、県士会として地域で活躍できる人材の育成と把握に努めていけるよう活動に繋がればと考えている。

Q6 地域連携部災害対策委員会

支援者向けパンフレットの完成用途は如何？「支援者」は誰を指すのか詳細を教えてください。

A6 「支援者」とは、避難所支援を行う行政職員や保健師等（リハ職以外の支援者）を想定している。このパンフレットは、JRAT が避難所等に直接赴いての支援が困難の場合に、現地の支援者に対して災害リハに関連する事項について啓発することが主な目的となる。2020 年度の千葉 JRAT 幹事会内でコロナ禍での支援活動に際し提案のあったもので、当時、県士会として提供できるものがなかったため、災害発生時の活動として「必要に応じて作成し提供する」としていた。感染対策・対応についても変化してきており、また様々なパンフレットが存在する中、県士会として独自に作成する必要があるか、要否も含めて令和5年度活動として検討したい。

Q7 地域連携部地域共生社会推進委員会

研修事業として掲げられている2種類の研修の参加者層が、重複しているようだ。目的は多少違っているが、別開催とする必要はあるのか（財源が別か？）。担当者やお金の負担軽減にもなるし、情報共有と人材育成を一体的に推進することを考えても良いのではないか。

A7 ご指摘の通り、財源、参加者層について同一である。2種類の研修会に関しては、1つ目が今まで行ってきた地域 OT との顔の見える関係作りとして意見交換会を想定していること、2つ目が来年度より始まる第四次作業療法5ヵ年戦略の地域共生社会5ヵ年戦略についての周知と体制構築に向けた研修会との2つの意味を込めており、委員会内での目的や内容整理も含めて計画した。本事業については情報共有と人材育成を一体的に進めることが望ましいと考えている。事業整理を行い効率的に行えるよう負担軽減を図っていきたい。

Q8 広報部広報委員会

活動方針にある Twitter の活用について、県民に向けた PR を検討して欲しい。県士会員に向けたパンフレットは、制作していたか。もし、会員向けのパンフレットを作っているなら、内容や活用方法を教えてほしい。なお、Facebook は会員向けだが、頻りに情報発信されており、とても助かるし、良いと思う。もっと理事や担当者の日常的な生の声なども発信しても良いと思う。

A8 Twitter を含めた外向けの広報について
ご指摘の通り外向けの広報は現状弱く感じている。更なる SNS 活用については実施可能な体制整備を含めて引き続き委員会内でも検討していきたい。

A8 パンフレットについて
会員向けのパンフレットについては内容の検討を R5 年度の活動項目として挙げている。県士会の紹介や、委員会等の活動を紹介し、組織率向上に繋がるものになればいいと考えている。活用方法についても、紙媒体、デジタル化含めて運用しやすいものを検討していく。

A8 Facebook について
ご覧いただいていることに感謝する。担当者、各委員会の広報担当が積極的に活用していると感じている。ご提案を参考にし、会員に、より県士会活動を身近に感じていただけるよう工夫を凝らしていきたい。

Q9 運転特設委員会

活動が長期になっているが、どのあたりにゴールを定めているか、見通しがどうなっているか教えてほしい。

A9 本委員会の設置当初は、3年間の時限的設置という事であった。コロナ禍で活動できない期間があった為、活動期間を延長している。今後の見通したが、当委員会では、日本作業療法士協会に準じた動きが良いのではと検討している。具体的には、日本作業療法士協会「運転と作業療法特設委員会（2016年～現在）」は、来年度の協会の組織再編に伴い新設される地域社会振興部内の地域社会振興課「運転と地域移動支援推進班」として、運転に限定せず地域移動全般を対象とした常設組織に改編される。これに併せ、千葉県作業療法士会においても、運転に特化した「運転特設委員会」ではなく、千葉県各地域の特性を踏まえたうえで、対象を移動全般に拡大し、地域移動の支援をしている OT を支える活動が継続できるとよいと考えている。

令和4年度 一般社団法人千葉県作業療法士会 臨時総会の報告3

Q10 総会資料にはページ番号をつけて欲しい。説明や質疑などでも「〇ページ」と言ってもらえると、すぐに参照しやすい為、検討いただきたい。

A10 ご指摘を受けて、手書きではあるが今回よりページ番号を加えた。

Q11 収支予算書にある経常収益の「研修会参加費」が2,301,500円となっているが、別紙の令和5年度収入見込みを見ると、研修参加費収入2,151,500円と広告収入150,000円の合計額が2,301,500円となっている。収支予算書で広告収入が二重に計上されているか。実際の経常収益計は14,239,500-150,000=14,089,500円では？

Q12 正会員会費収入が前年より減少している理由を教えてください。

A11,12 総会当日に回答させていただく

Q13 賛助会員増加について、昨年の予算総会で病院に呼びかけてはどうかという提案があったが、検討はされたか？

A13 具体的に検討できなかった。理事会で検討していきたい。

Q14 臨床実習指導者講習会受講料値上げという話だが、前年度比で収入が減り支出が増えている。収入が増えて支出も増えるならわかるが、このような予算案になったいきさつ（理由）について、教えてください。

A14 前年度から収入見込みが減少している要因は2点。

1. 臨床実習指導者講習会の受講者数を減少させたため（令和4年度計画は講習会3回実施、定員各100名、合計300名。令和5年度計画は講習会4回実施、定員各70名、合計280名）。
2. 収入見込み計算において、実績を元に受講者定員充足率を反映させたことが要因。まず当士会運営の講習会の受講費は、県士会員2000円（他県士会員含む）、非会員14000円となっている。令和4年度計画では、県士会員の割合を8割、非会員の割合を2割として概算調整して、最終的に1380000円とした。一方、令和5年度計画については、県士会員割合8割、非会員割合2割とした上で、今年度の定員充足率70%を乗じて収入を概算調整し、最終的に980000円とした。実績を元に定員充足率を反映させた結果、収入見込みが減少した。支出の増大に関してだが、講習会回数が昨年度より1回多いことが最大要因である。講習会の

開催にあたっては16時間以上の内容を実施することが定められており、講師謝金や通信費はある程度固定された支出となる。1回の講習会運営で約32.5～40万円が支出されている。令和5年度は委員の退任もあり、不備のない開催を行いながら、臨床実習指導者の育成を果たすために70名規模の講習会とし、開催回数を多く設定したため、支出見込みもやや増大した結果となった。また、講習会開催以外にも、オンライン講習会に不慣れな方に対し機器操作等を確認する事前オリエンテーションを4回、臨床実習指導者講習会のフォローアップ講習会を3回、会議を10回程度と積極的な活動を予定している。支出は増大するが、当委員会としては、本活動を将来の作業療法士を育成するための重要な活動の一つであると強く認識しており、本来の目的である臨床実習指導者講習会修了者の養成に重点をおいて精力的に活動を行う計画としている。また、臨床実習指導者講習会の受講費の改訂に関しては、再来年度以降に実施を検討している。

背景は、2019年度当士会における初めての講習会開催以降、今年度までに709名の臨床実習指導者講習会修了者を輩出し、当初の目標養成数であった669名を速やかに達成できたことが挙げられる。これまでは、2020年度入学生以降の実習を受け入れるために速やかに実習指導者を目標養成数まで養成することが重要であったが、当初の目標養成数を達成できた為、今後は臨床実習指導者講習会を作業療法士の生涯教育の一端と担う講習会と位置付け、継続可能かつ適正な運営をもって開催したいと考え、受講費価格の改訂を検討している（実際に、日本作業療法士協会の生涯教育制度として、基礎研修終了後の初回更新時に受講が必須の研修と位置付けられている）。令和5年度は、当委員会のこれまでの実績や、価格改定を含めた今後の委員会の方針など、価格改定までの背景を県士会員の皆様に県士会ニュース等で事前に十分にお伝えし、ご理解を賜れますよう努力する。

Q15 これまで協会員＝士会員の方向性について、会員から質問や要望があれば内容を教えてください。

A15 ニュースやホームページで周知を図ってきたが、会員からの質問や要望は無かった。

Q16 協会員＝士会員となることで、士会が協会の下部組織のようになることを半ば危惧している。そういう問題意識は、理事会の中にあるのか？

A16 協会員＝士会員は、会員が協会にも士会にも入会することを促進・実現することによって、協会＝士会ではないことを明確に認識している。47都道府県委員会等での協会の説明も、協会も士会も別の組織、対等の立場と説明している。様々な活動・事業で協会からの支援や助言を受けている部分が多分にあるが、士会が協会の下部組織になっていると感じたことはない。

Q17 質問というよりは感想だが、昨年まで役員を30年近くやっていて、士会内部の事情がわかっているのが当たり前だった立場から、代議員になったとたんに情報というか内部事情がわからなくなり、「ああ、役員じゃないだけでこんな感じになるんだなあ…」としみじみと思った。結果的に質問や要望がとて多くなり、申し訳ないが、理事会の外側にいると本当に中の事情がわからなくなるので、そうした立場に配慮いただき、わかりやすい説明をお願いしたい。

A17 委員の皆さんも理事も日々時間と労力を「千葉県作業療法士会」の活動に費やしてくれていることと思う。この熱量が会員の皆さんに伝わらないのはとても淋しいことである。「熱量」と「何のために、どんな活動をしているのか」は別の事だとは思いますが、会員の皆さんに県士会が何をしているのかご理解いただけるよう「わかりやすい説明」と「伝える」事に努めていきたい。

Q18 各委員会の新規募集は具体的にどのようにしているのか？

委員については活動に対する報酬はなく、ボランティアのような状態かと考えている。新規募集は委員の繋がりに頼る以外にどのような方法をとっているのか。議案書でも人数の記載がある委員会と無い委員会がある。ホームページや士会ニュースでは募集をしている広告等は見つけられなかった。委員会毎に対応の違いもあるかと思うので総会当日にも質問させて頂く。

A18 委員の募集については、各委員会で様々な方法を用いている。具体的には以下の通り。

①委員のつながりで個別にお誘いする ②研修会・学会などの機会に募集をする ③県士会ニュースで募集する
総会で直接ご質問いただければ各委員会の担当理事から具体的に回答させていただく。

総会当日、代議員 38 名（委任状含む）が出席し、議長に村松代議員が選出され、第 1 号議案 令和 5 年度事業計画及び当初予算計画、第 2 号議案 協会との「会員の個人情報の取り扱いに関する覚書」締結の件について審議され、すべての議案に対し賛成多数で可決承認された。

質疑応答

1. 収支について

質問内容：正会員会費収入が前年より減っていたが、理由について如何。

回答内容：理由について、転入・転出、退会 22 名、昨今協会に加入しない人が増えている。

質問内容：収支予算書にある経常収益の「研修会参加費」が 2,301,500 円となっているが、別紙の令和 5 年度収入見込みを見ると、研修参加費収入 2,151,500 円と広告収入 150,000 円の合計額が 2,301,500 円となっている。広告収入がダブルカウントされていないか。

回答内容：誤りがあったため、修正する。

2. 広報委員会の会員向けパンフレットについて

質問内容：会員パンフレット制作の目的は？

回答内容：会員向けのパンフレットは、県士会の概要や部会を分かりやすく説明するために作成したいと考えている。

3. 千葉 POS による窓口設置の進捗状況

質問内容：県内各エリアに行政との連絡窓口となるリハ職を確保するというのがちば POS の取り組みとしてあったと思うが、この取り組みの現状はどうなっているか。また、このことと地域連携部の取り組みがどう関連しているのかを教えてください。

回答内容：当初は千葉 POS が窓口を担っていく方針であったが、市町村のリハ職連合がその役割を担う状況もあり千葉 POS の役割を見直している。OT 協会は各市町村に OT 窓口設置を想定しているが、千葉県内ではどのような体制が望ましいのか、OT 士会として整理して考えていく必要があると考えている。

4. 会員の入会促進について

質問内容：県士会員減少に対し、会員が入会するメリットをどう提示していくか、研修会費支払い方法についてネット入金など検討できないか。

回答内容：会員非会員を含む千葉県 OT 総数は把握しきれていない。入会に対するメリット、個々の心情や環境の問題から入会をしない方もいる。

5. オンライン研修での個人情報の扱いについて

質問内容：MTDLP 含め、事例検討をしているが、現状主流であるオンライン研修の際の運用ルールはあるのか。

回答内容：JAOT の運用規定がありそれを基に運営している。動画に関しては事前配布することはない。配布資料はレジュメのみで、パスワードをかけた受講者のみ視聴できるようにしている。配布資料は、研修会終了時ホームページサーバー上からも削除している。受講時に使用する動画は録画しないよう受講者に呼び掛けている。ネット入金システムについてはコストも発生するため、県士会の予算状況を踏まえ、情報収集しながら検討していきたい。

6. 研修会の収支について

質問内容：研修会参加費収入 2151500 円に対し、研修会支出はどの程度か、赤字事業になっていないか。

回答内容：研修会を収益事業と考えていないため、収益化を目的とした活動計画にはなっていない。

7. 研修事業の手続きの統一について

質問内容：各委員会が研修会を予定しているが、全体統一できる部分はした方がよいと思う。それらを統括する部署があってもよいか。研修会の年間予定について提示できると参加促進しやすいのではないか。

回答内容：研修会の様々な手続きなど統一した方がよいところは今後検討していきたい。

8. 各委員の募集について

質問内容：委員の新規募集について委員になるメリット・デメリットをどのように考えるか、委員やブロック長等どこに所属の誰がいるのか等委員の個人情報についてはどの程度開示できるのか。

回答内容：委員に会議等の手当を払うのは雇用契約を結ぶ必要があり、現実的には難しい。事務能力・財務能力上難しい。

県士会活動に参加することで自分の施設だけでなく広い目を養うために参加していただければありがたい。県士会は士会員が作っていくものと考えていただきたい。県士会ニュースで昨年11月号に委員会募集をかけた際、応募があった。また、研修会後のアンケート回答者へ直接声掛けすることもある。

9. 協会=士会員について

質問内容：一括払いなどの変更はいつごろからになるのか。

回答内容：47都道府県が揃わないとスタートできない。2025年目標だったが遅れており、見通しが持てない状況と聞いている。

全ての議案について承認され、12時00分閉会となった。

(千葉県立保健医療大学 有川真弓)



第 24 回 千葉県 作業療法士学会 を 終 え て

2023年3月5日(日)に始まった当学会も、3月26日(日)を迎え、無事に終わることが出来ました。参加していただいた皆様、学会開催にご協力いただいた皆様に改めてお礼を申し上げます。

今回のテーマは「多彩」ということで、様々な作業療法の魅力に触れることが出来るように準備を行いました。各分野でご活躍している先生方にご協力いただき、作業療法の奥深さを感じていただけたのではないのでしょうか。

来年度の学会は25回目を迎えます。節目に相応しいテーマで準備していきますので、第25回千葉県作業療法士学会もよろしくお願いいたします。

(学会委員会)



学会賞・奨励賞の発表

学 会 賞

演題 14 「錐体外路症状を伴わない小字症に対する CUE を利用した書字練習の効果」

千葉大学医学部附属病院 リハビリテーション部 平野 潤さん

数値化しづらい小字症の評価について、文字の面積を測定し、書字練習前後での変化を検証し報告してくださいました。また介入方法では、visual cue や auditory cue では効果が得にくい状況の中で、対象者の傾向から動作を区切り加速を抑える CUE を用い、対象者の作業遂行に変化をもたらした点が評価されました。

奨 励 賞

演題 4 「熱傷患者に対し効果的な関節可動域訓練を実施した一症例」

君津中央病院 リハビリテーション科 岩瀬 大樹さん

2021年の日本熱傷学会ガイドラインの改定により、初めてリハビリの項目が設定されるなどこれから取り組みが活発になる分野において、他職種連携による作業療法の実践の報告をして下さいました。作業療法の介入にあたっては、ケタラールの鎮静効果が薄れた際に運動促進をするという、まだ一般的には広まっていない方法を先進的に取り入れて効果を出された点が評価されました。

総評

発表演題はどれも非常に質が高く、多彩であり、対象者の生活を支え、今後の作業療法の発展のために有益なものばかりでした。みなさんが、対象者に対してきめ細やかなニーズの把握、評価、苦労しながらもより良きものを目指して作業療法の実践をされている事が明らかにされ、本当に甲乙つけがたい素晴らしい発表ばかりでした。

来年度開催の千葉県作業療法士学会は、節目の第25回目を迎えます。皆様からの素晴らしい演題発表に会えることを心待ちにしていますので、今後とも千葉県作業療法士学会をよろしくお願いいたします。

生活期リハ実務者研修会・研修実行委員の募集について

募集要項

- ・千葉県内にお住まいまたはお勤めの千葉県作業療法士会に所属されている方
- ・生活期リハビリテーションに興味のある方(経験の有無や年数は問いません)

概要

- ・年1回の研修の為に企画・準備・運営・それに伴う年6～8回程度の会議(主にZoomを使用)

担当委員よりひとこと

千葉県の生活期に携わるセラピストの方々の為に研修を企画する事で、自分が働く地域以外の事を知ったり意識したり、様々なセラピストと出会うきっかけになるとと思います。話しやすい委員がOT・PT・ST士会とも揃っていますので、1年を通しての作業にはなりますが、気軽に参加して頂けたらと思います。

担当窓口

生活期リハ実務者研修委員 - 佐々木啓人

sohgoh.reha.sasaki@gmail.com

福祉用具対策委員会よりアンケートのお願い

福祉用具対策委員会では、会員みなさんが作業療法現場で福祉用具に関連する「どのようなことで困っているのか」を調査し、少しでも福祉用具を活用した有効な作業療法の提供につながるような支援、対策を検討するためにアンケートを行います。URL、QRコードよりご回答ください。

みなさんの声を多く頂戴できますと幸いです。ご協力よろしくお願ひします。

<https://forms.gle/qjCT1ujxqs3sWMNu9>



M@mail (まめーる) 登録のご案内

メール配信サービスであるM@mailは災害時の連絡手段、情報収集が主目的ですが、研修会情報や理事会議事要旨など会員の皆様に向けた情報提供も積極的に行っています!!

現在340名程の方に登録いただいています。

まだ登録がお済みでない方は、QRコードまたは、こちらのアドレスに空メールを送ること
で登録できます!ぜひともご登録ください!!

caot_aha0006@mamail.jp



LINE 公式アカウント について

令和5年1月16日に最初の配信を行いました!

月2回を目安に研修会情報などを配信していきます。

現在115名の方に登録頂いています。皆様のご登録お待ちしております!!

友達追加の方法

友達の追加→QRコード
→右のQRコードを読み取る



友達の追加→ID検索から以下のIDを入力

@442xxhdx

2023年1月29日 学術部発達障害委員会 2022年度研修会、開催しました！

近年、障害児者の地域移行、地域支援が叫ばれています。小児の分野でもそれは同様です。児童発達支援事業所や放課後等デイサービスに所属する作業療法士も増加し、保育所等訪問支援や療育等支援事業などによる巡回相談で保育園や幼稚園、学校といった母集団への参加をサポートする実践も増えてきました。

一方、小児期の支援では主訴の所在や「子どもの育ちの保障」と「子ども中心」のギャップ等から、現場に出て悩むことも多いのが実情です。

そこで、今回は「地域作業療法における発達障害を持つこどもの意味のある作業を提供していく支援」というテーマで、プレイジム代表の太田 篤志 先生をお招きし、講義とグループワークを行いました。

Zoomでの開催で、県内や関東圏のみならず北は北海道から西は九州まで、委員を含め38名が参加しました。

- ・楽しみそのものを支援、自分から始めた遊び・活動の中で“身につけて欲しい力に取り組む”
 - ・“その子らしい”発達をサポートする
 - ・社会モデル、集団・活動で多様性を重視する
- また、講師の実践を通して、
- ・子どもが自分から能動的になっていくということ
 - ・地域で／地域とつながるということ

・共通の興味から子どもたち同士が繋がっていく、自然とソーシャルスキルを身につけるということ等をお話いただきました。

全体を通して「子どもたちの“生き生きとした世界”を支えていく、“やりたい気持ち

”が実現し広がっていくことを目指す“アニメーション”といった考え方に衝撃を受けた方が多かったようです。

先生のお話を聞く前と聞いてからと2回、同じメンバー・同じテーマでグループワークを行いました。そのことでそれぞれの気づきが明確になったかと思えます。お子さんについて少ない情報から長期目標や支援の方向性を活発に話し合えたグループも多かったようです。一方で、先生のお話に衝撃や戸惑いを感じ、その想いを共有し、なぜ「お子さん中心」の「意味ある作業」に重点を置いて地域支援を行う必要があるのか、その事がどうお子さんの発達に繋がるのかを確認しあったグループもありました。

とはいえ、それぞれがそれぞれなりの方法で、先生からのお話を噛み砕き、明日を迎えることができる時間になったと思います。

参加者の皆様、受講お疲れ様でした。

本委員会では、毎年発達領域に関係した研修会を企画・運営しています。今後ともよろしく願いたします。

地域連携部 こども連携委員会より

「レジェンドから学ぶ医療保筑紫の具体的実践

～地域連携の基本である相互理解を目指して～ 研修報告

2月26日に地域連携部 こども連携委員会 主催「レジェンドから学ぶ医療と福祉の具体的実践～地域連携の基本である相互理解を目指して～」と題して、ナーシングデイやすらぎ 黒澤淳二先生、堺市立重症心身障害者（児）支援センター ベルデさかい 松本茂樹先生、うめだ・あけぼの学園 酒井康年先生のレジェンド3名から貴重な講演をいただきました。

講師の先生方には、これまで非常に多くの経験から導き出される「医療と福祉における

連携のあり方」について話されました。それぞれの先生方の経験を聞くことができるとても貴重な時間でした。また3名の先生方を通じて、「連携の中心」には「こども」がおり、本人の“人生”の文脈を紡いでいくことが“連携の核”であるということが共通項と

して話されていました。連携は手段であり目的はあくまでも本人に寄り添った支援であること！そこに連携の必要性が見出されるという熱いメッセージを感じられた研修会でした。

その後、参加された方々によるグループワークを通し、今ある連携課題を共有、対応策などについて話されました。繋がりを持つことの意味や、必要性を再認識しつつ、ICTの活用や有効な手段についても話され、今後の当委員会の活動においても貴重なご意見をいただくことができました。

こども連携委員会では、本研修会を通していただいた意見も参考にしながら活動を続けて参ります。これからも多くの皆さまのご参加をお待ちしております！



理事会報告

2022年度 第11回 理事会

2023年2月9日(木) 19:00～21:40 WEB会議

坂田、須藤、今野、松尾、有川、兼子、金平、熊谷、五味、佐々木(啓)、佐々木(竜)、下田、多田、露崎、安森、横山、古城 計17名

【検討事項】

- 令和4年度臨時総会、令和5年度活動計画、予算について
 - 臨時総会の日程について、代議員にメールにて案内した。
 - 予算案、活動計画未入力部局について確認。早急な記載を依頼。
 - 今後の臨床実習指導者講習会の参加費値上げについて調整していく。
 - また次年度の活動として、県士会としての中長期展望の策定に着手していきたい。理事会とは別で新規委員会ならびにWGの設置を検討していく。
- 「会員の個人情報の取り扱いに関する覚書」締結の件
 - R4年度をかけて会員に上記を周知してきた。総会にて上記を締結、締結後に会員に示していく各種資料を確認した。
 - 総会にて上記覚書締結について議案として提出してよいか。⇒承認
- 『運転と作業療法研究会』研修会開催情報の県士会HP広報について
 - 上記、案内についてHP掲載を無料として対応できないかという問い合わせがあった。⇒無料掲載として承認する。
- 船橋市リハビリテーション協議会への提出資料に関して
 - 地域リハに関わる人が不足している事や地域事業所でのセラピスト採用に関する説明会なども提案予定。⇒継続審議
- 休会申請について(事務局)
 - 2023名の休会申請、14名 休会理由について確認、令和4年年度休会からの復帰者は5名。⇒承認
- 千葉県生活期リハ実務者研修について
 - 人員体制が不足しており、県内各地域に委員が必要と考えている。各ブロックで委員を選出してはよいか。⇒承認

【連絡事項】

- 令和4年度生涯教育推進担当者会議報告について
 - 生涯教育制度2023年会改定内容やキャンセルポリシーの取り扱いについての情報提供などがあった。
- LINE公式アカウントとFacebookの稼働状況について(広報委員会)
 - LINE公式アカウントは1月16日から稼働を開始した。
- 養成校卒業生の表彰について(表彰委員会)
- 福祉用具対策委員より委員派遣について
- 各研修会案内について
- 学会参加への周知
 - 3月5日、12日の県士会学会。2月19日まで申し込み受付中。